



SM コンフィデンシヤル

I. 『New-SM』(店舗紹介)

中・四国（関西）地方の小売業が大きく地殻変動を起こしている。「イオン」グループ入りしたマルナカ、山陽マルナカに続いて天満屋ストアが「セブン&アイ」グループ入りである。さらにイズミヤはH2Oグループに参加する。一方、独自路線で新店を開設し続ける小売業がある。（株）フジ（愛媛県松山市本社）と（株）ハローズ（広島県福山市本社）である。

2社が展開する‘New-SM’は・・・。

◆「フジ安城寺店」(松山市安城寺町571-1)

昨年11月、NSC「フジ安城寺店」はオープンした。松山市北部エリアのドミナント強化に向けての布石である。同社総菜工場「フジデリカ・クオリティ」の隣地である。敷地面積14684㎡に横長、平屋造りの店舗は核店舗にSMの「ヴェスタ」、グループ衣料の「ザ・カジュアル」、テナントのクスリ「レディ」、ベーカリー「ブウランジェリ・アペ」が横一線に並ぶ。

早朝7時から営業するベーカリーショップは出来立てパンを求める消費者が絶えず、高い人気の話題店舗である。総投資13億円で年商18億円は高い収益性が望めるNSCで、店舗前面に182台の駐車場を確保しており使い勝手の良さは抜群である。アグレッシブな店舗開発に挑戦する「フジ」グループにとって高い可能性を秘めた店舗開発フォーマットとして期待される。



“フジ安城寺店”



“ハローズ新居浜郷店”

◆「ハローズ新居浜郷店」(新居浜市郷5-9-11)

24時間営業の（株）ハローズ（本社：広島県福山市）が四国上陸作戦を着実に進めている。昨年末にオープンした「高松レインボー店」「鳴門店」に続く「新居浜郷店」出店で61店舗、年商879億円を実現し、1000億体制を視野に入れる。経営トップの高い志と、チェーンストア経営の原点を着実に実現する経営姿勢が明確に見えてくる。

地域ドミナント→ローカルチェーンづくり→ナショナルチェーン化に向けて着実なステップを踏み続け、“24時間営業とEDLP”を堅持する経営目標は確実にシステム化が進んでいる。中・四国エリアで最も高い成長が期待できる企業として注目したい。

四国は三本の本四架橋開通（神戸・鳴門ルート、児島・坂出ルート、尾道・今治ルート）によって瀬戸内海を挟んで瀬戸内経済圏とでもいうべき一大商勢圏が完成した。四国にとって本四架橋は明治時代からの念願が果たされたことになる。皮肉なことに瀬戸内経済圏の完成が企業の命運を速めることになった。「香川のマルナカ、岡山の天満屋」といわれた地元名門企業がいち早く大手傘下で再出発を図ることになったのである。

II. 『Gossip Session』(井戸端会議)

関西、中・四国で小売業の大型再編が続く。厳しい同業者間の競合から異業種・異業態との競合が企業再編に拍車をかける。とりわけコンビニエンスストア（CVS）の進出はボディブローにダメージを与え、企業の体力を削ぐ。一時期、CVS飽和論が囁かれはじめた。しかし、激しい消費環境の変化に素早く対応し、新たな需要を掘り起こすことで新しい発展段階に進化しようとしているのはCVSであった。

5万店を超したCVSにまたまた新たな飽和論が出始めている。しかしCVS大手4社の新規出店計画は各社ともに1000～1500店舗を計画しており、更に5000店舗が加わることになる。高い利便性とGMS、SMを凌駕する商品開発力、新サービスの提供と進化は止まらない。物販、外食、サービス、国内、海外と全ての領域で需要を飲み込もうとするCVS。小さな巨人がさらに巨大化しようとしている。

III. 『Memoirs』(回想録)

30年程前に「フジ」本社を訪問したことが忘れられない。繊維卸売業「十和」が前身の同社は古い校舎を本社として再利用していた。長い廊下に並ぶ教室が各部門の業務スペースに充てられていた。社長室で吉田社長(当時)に面会し、会社を案内していただくと、体育館は商品在庫スペースとして利用されていたことが記憶に残る。

ピカピカに磨き上げられた床に、塵ひとつない校舎(本社)で堂々と迎えていただいた社長のお話に畏敬の念すら感じていた。3000億円企業となって四国ナンバーワン小売業に成長した(株)「フジ」の更なる飛躍を願わざるを得ない。

(文責:須波 満)

-
- 本サービスは原則として毎月1回配信します。
 - 本サービスはスーパーマーケット業界の最新情報をコンパクトに発信することを目的とします。
 - 利用者が本サービスを利用した結果について一切責任は負いません。

CHINA—JAPAN Corporation Copyrights2013
